



行動無くして結果生まれず

夏場の火災発生に注意しましょう

7月に入ってから酷暑が続いています。柏市内では7月25日までに計11件の消防署の出動通報がありました。火災の程度は不明ですが、去る16日にも大井区内での出火情報が確認されました。

全国的にもこのような増加の傾向があり、乾燥する冬場の火災予防に加え、この時期はエアコンや扇風機といった空調機器の老朽や不具合からの発火が話題となっています。更に、携帯電話には欠かせない充電器からの出火も社会問題化しています。

扇風機の火災事故は製造から10年以上経っている製品で多く発生しています。その主な原因は「経年劣化」(長期間使用で製品内部部品が劣化し性能が低下すること)で、劣化した部品が使用中に発熱や発火し、火災につながっているのです。経年劣化事故は、年数が経つにつれて増加する傾向にあります。

扇風機の事故は2022年度までの過去5年間に計71件発生しています(2023年通報より)。

＜主な火災事故原因＞

画像提供：NITE

- ・長期使用で部配線が首振り機能などで繰り返し折り曲げられることで断線し、スパークが発生し発火
- ・長期使用でモーター部品が劣化してスパークが発生し発火
- ・長期使用でモーター用コンデンサーが徐々に絶縁劣化し、ショートすることで発熱・発火



扇風機による事故の中には、「動いていないため、スイッチが切れていると思ったが切れていなかった」「スイッチを入れたものの動かなかったため、そのままにしていた」ため、事故に至った事例も報告されています。

特に製造から長期間経過した扇風機においては、異常が見られなくても、使用を中止するか、使用しないときは電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

また、次に挙げるような異常がないか確認してください。次の症状のうち一つでも該当する場合は、すぐに使うのをやめ、電源プラグをコンセントから抜き、メーカーや販売店などに相談しましょう。

<こんな異常に注意>

- ・ スイッチを入れても、羽根が回らない
- ・ 羽根が回っても、回転が異常に遅かったり不規則だったりする
- ・ 羽根が回転するときに異常な音や振動がする
- ・ モーター部分が異常に熱かったり、焦げくさいにおいがしたりする
- ・ 羽根にヒビが入っている。ガードが変形している
- ・ 電源コードが折れ曲がっていたり破損したりしている
- ・ 使っている時に電源コードに触れると、羽根が回ったり回らなかったりと不安定である

10 年以上使用している扇風機は細かく点検し、異常があれば、すぐに使用を中止してください。なお、古い扇風機は部品の劣化が火災の原因になっているため、買い替えをお勧めします。

* * * * *

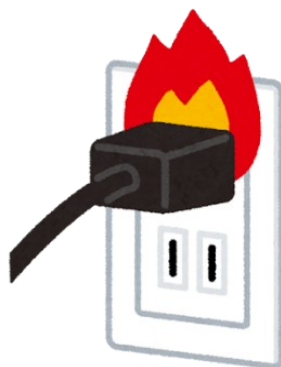
エアコンの事故は 2022 年度までの過去 5 年間に 302 件発生、うち 9 件が死亡事故です（2023 年通報より）。

<主な火災事故原因>

- ・ 電源コードの改造や修理、接続（ねじり接続、延長コードとの接続）により接続部分が接触不良で異常発熱、発火
- ・ エアコン洗浄により洗浄液が機器内部に侵入してトラッキング現象が発生し、発煙・発火
- ・ 機器内部に小動物等が侵入し、基板に接触することによってショート、異常発熱

<こんな異常に注意>

- ・ 電源コードや電源プラグが異常に熱い
- ・ 電源プラグが変色している
- ・ 焦げくさいにおいがする
- ・ ブレーカーが頻繁に落ちる
- ・ 異音がする
- ・ 室内機から水漏れがする



最近はモバイルバッテリー、電動アシスト自転車バッテリーからの発火も比較的に数多く発生しています。リコール対象の問題商品でないのかを確認し、強い衝撃での落下、炎天下のほったらかし状態、長時間充電しっぱなしにはくれぐれもご注意ください。